

検討の観点（「精選言語文化」2東書 言文702）

項目	観点	特色・具体例
1	内容の選択・程度	<ul style="list-style-type: none"> ○言語文化への理解を深め、総合的な国語力が育成できるように、教材は厳選され、バランスよく配列されている。現代文編は、小説・随筆・詩歌の学習がバランスよく組み込まれており、また、古文編・漢文編では古文・漢文の教材がバランスよく配置され、主要ジャンルの重点学習が徹底できるように配慮されている。 ○現代文編では、豊かな心情や感性が身につけられる定評教材が数多く採録されている。古文編は各時代の代表的な教材、漢文編は故事・寓話・詩・史話・思想などから基本教材が選ばれている。 ○各編の適切な箇所に言語活動教材が設けられており、「書く」「読む」の指導を行うための教材が適切に用意されている。 ○手引きには、教材を的確に理解するための設問が吟味され、示されている。また、現代文編の「注意すべき語句」「漢字と語彙」など、重要語句の意味・用法や常用漢字が身につけられるように工夫されている。
2	組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ○現代文編、古文編、漢文編の3部構成で、現場の指導実態に合わせて扱えるように配慮されている。 ○古典文法、漢文句法を学習するコラム（「古文学習のしるべ」など）は教科書の用例をもとに解説されており、附録の「古文重要語句索引」「漢文句法・重要語のまとめ」は、脚注欄の「古文重要語句」「助字・句法」との関連もつけられていて、指導しやすい。 ○現代文編、古文編、漢文編ともに読解力の育成・定着をはかることができるように配慮されており、分量も適切である。 ○現代文編の手引きや、古文編・漢文編の入門単元は、中学校での学習にも配慮されており、高校の学習へスムーズに移行することができる。 ○参考教材が適宜設けられており、生徒が学習を深めるための配慮がなされている。
3	表記・表現及び指導に対する工夫や配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○現代文編は、定評教材を軸に、現代の作者や筆者の教材も積極的に採録されており、学習意欲が高まるように配慮されている。また、コラム「小説の読み方」や、「現代文の窓」によって、教材の内容を深めたり、文章の種類に応じた読解の仕方を学んだりすることができる。 ○古文編・漢文編には、学習内容と関連づけて古典への理解を深めるコラム「古文の窓」「漢文の窓」などが豊富に配置されている。また、資料性の高い写真・図版が適切に掲載されている。特に巻末のカラー図版は資料性が高く、生徒の古典学習に対する意欲が高められるように工夫されている。 ○用語・記号は統一されており、記述の仕方も適切である。 ○巻末には「近代文学史キーワード」「読書案内」などの附録が用意されており、生徒の自学自習に役立つ。 ○教科書を支援する指導書や周辺教材などが充実しており、指導しやすく学習しやすい教科書である。
4	印刷・造本上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○活字は鮮明で美しく、文字の大きさ、行間も適切で読みやすい。写真、挿し絵も鮮明で効果的である。 ○製本は堅牢で、軽量の紙が使用されており、生徒の負担に配慮されている。 ○図の色使いなどは、色覚特性への配慮を含むユニバーサルデザインとなっており、全ページにわたって配色が工夫されており、見やすい紙面になっている。 ○本文の用紙には再生紙と植物油インキが使用されており、地球環境や資源に及ぼす影響も考慮されている。
5	総合所見	<ul style="list-style-type: none"> ○現代文編、古文編、漢文編とも、質的に優れた教材が選択されており、分量も妥当である。また、教材の配列にもきめ細かな配慮がなされており、言語文化への理解を深め、総合的な国語力を育成することに適した教科書である。